

2016年10月

第73号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

Rio オリンピック・パラリンピック閉幕

今年の夏は地球があつく熱く燃えた。秋田市での7月以降の猛暑日・真夏日の合計が例年の倍近い40日を数えた(横手市では49日)。8月8日には米大リーグのイチローが史上30人目のメジャー3000本安打を達成し、殿堂入りを確実なものとした。

8月5日から8月21日まではオリンピックが、9月7日から9月18日まではパラリンピックがリオデジャネイロで開催され、熱き戦いが繰り広げられ大きな夢と感動を与え閉幕した。

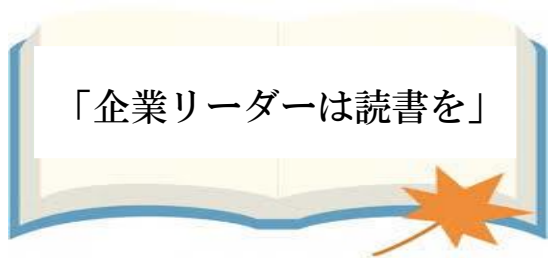
日本選手は、オリンピックではJOCが掲げたメダル獲得数30個以上の目標を大きく上回り金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル21個を獲得し、メダル総数41個は史上最多を更新した。パラリンピックでも残念ながら金メダルは逃したものの前回のロンドン大会の16個を上回る銀・銅合わせて24個のメダルを獲得した。日本選手はオリンピックでは3位決定戦で11勝2敗、決勝戦でも8勝4敗とチームジャパンとして最後まで諦めずにしぶとく戦い抜き勝負強さをいかんなく発揮した。

今回は印象に残る競技が多く連日テレビに釘付けとなった。特に、内村航平選手を中心とする男子体操団体・大逆転での個人総合金メダル獲得は壮絶な戦いが繰り広げられた。女子レスリングでは伊調馨選手が残り5秒で逆転に成功、4連覇という偉業を成し遂げ国民栄誉賞に輝いた。

陸上男子400mリレーでは、100m走で一人も9秒台の記録はなく、また、決勝へ進出も果たせなかった4人組がバトンタッチとチームワークで走り切り米国を退け、ボルト選手を擁するジャマイカと互角に渡り合い銀メダルを獲得する快挙を成し遂げた。これは、世界中をアツと言わせ、驚きと称賛の声を巻き起した。

さて、4年後にはいよいよ「おもてなし」で誘致が決定した東京オリンピック開催である。今回のリオではドーピング問題が影を落とし、施設整備の遅れや、国内での五輪反対運動・大統領弾劾など様々な制約下で開催されたが、見事大会を成功に導くことができた。

今回の日本選手団の橋本聖子団長は東京五輪メダル目標を倍増の「82個」とした。前回開催国の英国は今回のリオで27個の金を含め67個のメダルを獲得している。開催国として大会施設やアクセスの整備とともに選手強化(強化費増額も含め)は喫緊の課題だ。「選択と集中」で効果的な対策を立てていただきたい。さらに、東京五輪は日本を世界から理解していただく絶好の機会でもある。来日した外国人に「平和日本」の姿と「日本の文化」を伝え「真のおもてなし」を体験していただけるよう万全の受け入れ態勢を整えていただきたい。



「企業リーダーは読書を」

書籍に向かって突進せよ

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

わたしはいまでも岩波書店の小泉信三著「読書論」をときどき書棚から取り出す。小泉信三先生は、古典、大著を読むことを奨めておられるが、何を読むべきか、いかに読むべきかなどと議論をするよりも、まず読みなさいというのが、実質的な指示だろうとおっしゃっている。

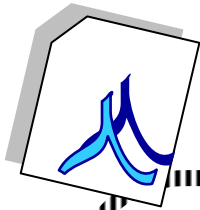
まず書籍に向かって突進せよ。これが一つの忠告だといわれる。いろんな面で多くの本を読んで自分を鍛える。自分の素行を顧みる。自分の未熟さを恥じるといことが人間の謙虚さをつくっていき、独りよがりになっていかない素養を育ててくれる。

小泉先生は「大著を読むことによって、人は別人となる。極言すれば、その顔も変わると言えるかもしれない」とお書きになっているが、古典や大著を読むのは容易なことではないから、多忙な経営者にとって、読書に没頭し、読みぬく決意を貫くことは難題と思われるかもしれない。ただ、そのような読書の試練を経てきた人は、しぶとさ、ねばりづよさ、わからないことにたいして、より考えぬこうという思索の大切さを、よく知っておられるように思う。

「読書というのは、現実に得られない体験を広げてくれたり、またある時には人間を鼓舞してくれるものですが、私にとっては常に疑問を投げかけてくれる一つの材料です。ですが、書物をあまり重く見てしまうと自分が浮かされてしまう。軽視してはいけないが、重く見てもいけない」

財界屈指の読書家といわれた平岩外四氏(東京電力、経団連元会長)が自らの体験を率直に語られたものだが、読書の大事な指針といえよう。





ヨハン・シュトラウス2世 (作曲家・指揮者) ワルツ王と呼ばれた

- 1825年10月25日 父ヨハン・シュトラウス1世(音楽家)と母アンナの長男としてウィーンに生まれる。父の影響を受けて音楽家に憧れるが父は音楽家にさせるつもりはなかった。
- 1830年 6歳の時に最初の作品「最初の楽想」(ワルツ)作曲。
- 1846年6月23日 父ヨハン1世の家の前で、自身の楽団員より演奏。関係修復に務める。
- 1854年4月 皇帝フランツ・ヨーゼフ1世とエリザベートとの婚礼祝典舞踏会で指揮。
- 1863年 宮廷舞踏会監督就任(1872年まで)。
- 1867年2月15日 「美しき青きドナウ」(合唱版)を初演。
- 1871年2月10日 初の喜歌劇「インディゴと40人の盗賊」を初演。
- 1872年 プロイセン王ヴィルヘルム1世より「赤鷲」の勲章を賜る。
- 1874年4月5日 喜歌劇「こうもり」初演。
- 1892年1月1日 宮廷歌劇場で初めて彼の作品(オペラ「騎士パスマン」)が上演された。
- 1899年5月22日 宮廷歌劇場で自作の「こうもり」序曲を指揮。これが最後の指揮となった。
- 1899年6月3日 肺炎のため亡くなる。享年73歳。

オススメのBOOK



『社会人としての言葉の流儀』

作者 川村 二郎 東京書籍

著者は1941年生まれ、「週刊朝日」の編集長。朝日新聞編集委員。日本語検定委員会審議委員などを勤めた。

本書では「車内を見まわすと、10人中8・9人がスマホをいじくっている。分別のありそうな中年の男までが、そうしている。彼らは表情に乏しく、例外なく目が死んでいる。今や日本人は歯車より小さな、デジタル機械の端末になっているのではないか・・・」国会答弁では「させていただきます」が流行、「しつかり病」が蔓延している。

世の中を「エイ・ヤア」と切りまくっているペン捌きは痛快そのもの。ときには、自分にも思い当たる場面も登場しギクッとさせられる。

意外と知らない火災保険

地震、台風、火山噴火、土砂崩れ等数多くの自然災害リスクを抱える日本。そうした災害により自宅が損壊してしまったら損害保険はどこまでカバーできるのでしょうか？

最近の火災保険は火災による損害だけでなく、さまざまな災害に対応できるようになっています。必要な補償を選んで加入が出来るため補償の範囲は加入者によって異なります。

今回は、台風による建物の損害に対する補償について考えてみましょう。

台風による損害をカバーするためには、2つの補償に加入する必要があります。

1つ目は暴風によって屋根が飛ばされたり、逆に風で飛んできた物が家に当たり被害を受けた場合などの風災です。風災は雪と雹による損害とセットになっており、損害額が20万円以上でなければ支払いの対象とならないものもあるので注意が必要です。

2つ目が、豪雨による洪水や高潮で、建物が流出した場合などの水災です。水災の場合、床上浸水または地盤面から45cm以上の浸水による損害が対象となり、支払われる保険金は損害の程度によって設定した保険金額の5%~70%となるのが一般的です。例えば、保険金額2,000万円の建物が洪水で流出した場合、支払われる保険金



は1,400万円が限度となるので、必ずしも全額が補償されるわけではありません。

また、土砂災害で建物が倒壊した場合も、原因が集中豪雨などによるものであれば水災の対象となるので、周囲に山がある場合には水災の加入を考える必要があります。

〔参考〕意外と多い支払件数トップ事例
こんなことまで火災保険で支払われます！！

例えば「不測かつ突発的事故（破損・汚損）」という補償をつけておくと…

- ・自動車が飛び込んできて建物が壊れた。
- ・家の中でボール遊びをしていてTVを壊してしまった。
- ・鍋が熱かったため落としてシステムキッチンを壊してしまった。
- ・家具を移動する際に誤ってドアにぶつけ壊してしまった。
- ・誤ってコーヒーをこぼしパソコンが壊れた。

これらの補償には殆どの保険会社で自己負担額が設定されるようです。

多くの火災保険は「建物」に限定しているため、災害による家財の汚損・盗難による現金被害には対応していません。別途、「家財保険」に加入する必要があります。それに、頻繁に起こる地震に対応するため「地震保険」の加入も検討すべきでしょう。



小安峡大噴湯（地獄釜）
深い谷底の岩の裂け目から熱湯が轟音と共に吹き上がる

【編集後記】

東京では豊洲市場の盛土問題が「安全上」の問題や、当初議論されていた盛土の上に建物を建てるという計画が、どのような経緯を経て現在の姿に変容したか、そのガバナンスなどについて連日マスコミで大きく報じられている。

11月初旬には築地市場から移転計画となっていて、五輪計画にも影響を与え兼ねない情勢だ。小池知事には問題提起や情報公開の他に如何に現実に即して早く混乱を収拾できるかその手腕も問われている。